



公益財団法人  
東京動物園協会  
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY



## 課題

「希少生物の保護・保全」の大切さは、  
彼らが絶滅してしまったときにようやく実感できる。

予防の大切さが病気になってからでないといけないように  
「守ること・防ぐこと」の大切さは、平時には実感しがたい。  
都立動物園・水族園の使命である「希少生物の保護・保全」も、  
希少生物が生きた姿で目にできる間は、なかなか実感できない。



方針

希少生物が絶滅してしまった世界を  
疑似体験させることで、保護・保全という  
都立動物園・水族園の使命の大切さを伝える。



## 着眼点

絶滅してしまった生き物は、  
動物園・水族園から博物館に行く

動物園・水族園に保護・保全されていた生き物は、  
絶滅すると化石や骨格標本の姿で博物館に展示される。



こんな未来にしないために。

## 絶対に実現させたくない博物館

絶対に  
実現させたくない  
博物館  
The Unwanted Museum

都立動物園・水族園が保護・保全する希少生物が絶滅してしまった  
未来の博物館を上野駅地下に再現。色々な種の化石のような模型を展示。



とは？

パンダやオランウータン、ペンギンやゾウガメ。

私たちが動物園や水族館で当たり前に見ている生き物の中には、絶滅の危機に瀕している種も数多くいます。

いつかは彼らの生きた姿を見れなくなり、博物館に化石や骨格標本の姿で展示されてしまうかもしれません。

この博物館では、そんな「あるかもしれない未来」が再現されています。

私たち都立動物園・水族園は、この博物館を未来永劫実現させないために、希少種の保護・保全を行っています。

パネルに展示の内容と  
都立動物園・水族園の想いを記載



ジャイアントパンダ



ライオン



フンボルトペンギン

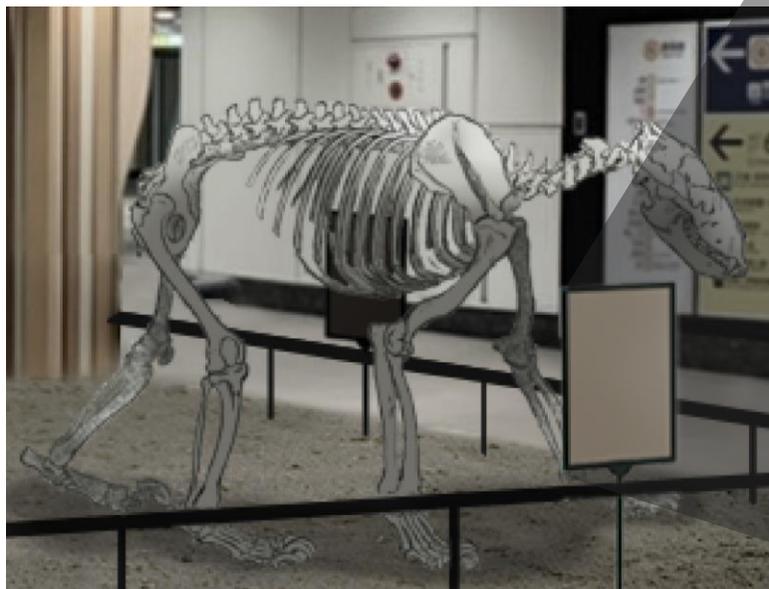


アルダブラゾウガメ



アカシュモクザメ

ズーストック種に指定された  
都立動物園・水族園の  
保全種を、化石の姿で展示



### ジャイアントパンダ(2100年頃絶滅)

白黒の模様をしており、尻尾の色は白だったという説と黒だったという説がある。

竹や笹を主食としていたと言われていたが、歯や爪の形状からは、肉食だった可能性も考えられる。

生きた姿で会えるのは上野動物園  
チケットはこちらから



各化石の解説パネルには、予想される絶滅年と、博物館風の解説文を記載。

さらにパネルのQRコードを読み込むと、それぞれの種を展示している

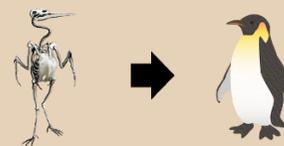
動物園・水族園のオンラインチケット購入リンクに移行する。



現在のチケット売り上げ累計

344 枚

チケット100枚売れるごとに1体、化石を生きた姿に戻しています！



あと 56 枚で、

パンダ

を生きた姿に戻します！

QRからのチケット販売数がサイネージ上でカウントされ、  
販売数100枚ごとに化石1体を生きた姿に戻す。

参加性を付与することで、希少生物の保護・保全に対する当事者意識が高まる。

## まとめ

見慣れた生き物が化石の姿で展示されている  
空間のインパクトをフックに  
都立動物園・水族園の、希少生物の保護・保全  
という役割の重要性を伝えます！